

文学部FDレター no.9

作成文学部FD委員会 2018年2月

文学部FD委員会は、文学部ディプロマポリシーに示された教育の実現に向け、教育および教員の質向上のための方策を企画し、実施することを主要な活動に据えています。その一環として、文学部では、ご担当の先生方による授業改善を目的に年2回の授業アンケートを実施し、その結果をお知らせしています。学生の皆さんが自由記述欄に書いた内容については、授業改善のための情報共有という観点から、FD委員会で整理をし、ニュースレターにて公表してまいりました。また、2015年度後期の授業アンケートについて整理した「文学部FDレター no.8」からは、FD活動自体の改善を目指し、「授業改善のために」のなかで先生方からいただいたご意見等も含めて載せております。今回も同様に、「学生自由記述欄」、「授業改善のために」の順で主な意見をご紹介します。

I. 授業アンケートの学生自由記述欄

今回も従来と同様に2017年度前期の自由記述欄をFD委員が閲覧いたしました。そこに書かれた学生の皆さんの意見を、以下、一部要約も交えながら「講義」、「外国語」、「演習」の順にご紹介いたします。

1. 講義

(1) 良かった点

- ・より深い専門的知識を得ることができた。
- ・社会の仕組みについて知ることができた。
- ・高校で学んだ歴史は一説に過ぎないことがわかった。
- ・専門用語の説明がきちんとなされていること。
- ・社会に出てからも考え続けるべき問題が示された。
- ・図書館情報学について深く考えられた、知識が深まった。
- ・日本語教育への理解が深まった。
- ・映像資料を中心とした教材の有効活用。
- ・板書や資料がわかりやすい。
- ・レジュメや資料、論文などが配布されたこと。
- ・参考文献の紹介が多いこと。
- ・学生の意見・リアクションペーパーに対する解説がしっかりしている。
- ・グループで行う授業だったので他の人の意見やアイデアを学べた。
- ・中間に確認課題や小テストがあり、自分の理解度を確認することができて良かった。
- ・宿題が毎回出たので勉強する習慣が身についた。
- ・先生の指導が丁寧だった。
- ・学生の意見を取り入れながら授業が行われた。
- ・先生の声が聞き取りやすい。
- ・先生の人柄。

(2) 改善して欲しい点

- ・シラバス（イメージしていた内容）との不一致。
- ・その時々授業の全体のなかでの意味がわかりにくい。
- ・前提知識を要求するので難しい。
- ・専門用語を中心とした語句説明を詳しく。
- ・もう少し基本的なことから説明して欲しい。
- ・その分野の基礎知識をもう少し学びたかった。
- ・質問ペーパーに対する返答がない。
- ・内容が詰め込み過ぎ、進度が速い。
- ・内容が簡単。
- ・話が脱線する。雑談が多い。
- ・板書が不適切（量、消すスピードなど）。
- ・プリントの穴埋め欄を板書などで示して欲しい。
- ・パワーポイントを送るのが速すぎる。
- ・開始時間の遅れや終了時間の延長。
- ・授業は早く終わる一方で、補講がある。
- ・話が聞き取りにくい。マイクを使って欲しい。
- ・出席を取って欲しい（取らないのは不公平）。
- ・遅刻者にきちんと対応して欲しい。
- ・私語・内職を含む授業中の不真面目な態度を注意して欲しい。
- ・3分の1までなら何度でも休めるという感覚の学生が多く、出席者が少ない。
- ・学生からの改善要求に応じて欲しい。
- ・トイレに行かせて欲しい。
- ・アンケート時間が十分に確保されない。
- ・先生がアンケート中に退室しない。

(3) 教室の施設・設備（受講者数、教室の大きさ、照明の明るさなど）について

- ・受講者数と教室の大きさが釣り合い。
- ・教室の温度調節が不適切。
- ・授業の中で資料検索を行うので、Wi-Fi環境を整えて欲しい。
- ・画像が乱れる。
- ・椅子が動きやすい。

2. 外国語

(1) 良かった点

- ・英語のみでのコミュニケーションが良かった。
- ・ドイツ語がもっと好きになった。
- ・中国語への興味・関心がとても高まり、勉学への意欲が持てた。

- ・韓国語の理解だけでなく韓国の文化にも興味を持てた。
- ・話す機会を充分に与えてくれた。
- ・課題の質問によく答えてくれた。
- ・丁寧な添削がなされた。
- ・卒論の添削を何回もしてもらえた。
- ・間違えた理由などをしっかりフォローしてくれた。
- ・さまざまなレベルの学生がいるなか、それぞれに対応していた。
- ・ゲームを織り交ぜるなどの工夫があった。
- ・グループワークがふんだんにあった点。
- ・出席、遅刻を厳格にチェックしている点。

(2) 改善してほしい点

- ・テスト・宿題が難しい。
- ・宿題の量が多い。
- ・授業の進度が速い。
- ・もう少し難しい内容にして欲しい。
- ・大切な情報は日本語で伝えて欲しい。
- ・早口などで先生の言うことが聞き取れないことがあった。
- ・あてる学生に偏りがある。
- ・1年生のときに別々だったクラスが2年生で合同となったが、1年生のときの進度が違ったので苦労した。
- ・同じ授業科目なのに、担当教員によって、教科書、授業内容、進度などが異なる。
- ・前年度からの引継ぎが機能しておらず、学生にレベル差があるまま授業が継続された。
- ・受講生の能力に開きがありすぎて、ディスカッションが上手く回らない。
- ・ペアワークの相手が非協力的で、十分な練習が難しかった。
- ・毎回ペアを変えて欲しい。
- ・他の学生の授業態度（私語等）が悪く、やる気を失う。注意をして欲しい。
- ・出席の管理をきちんとして欲しい。
- ・教員も態度に気をつけて欲しい。
- ・アンケート時間が短い。
- ・アンケート中に先生が退出しない。

(3) 教室の施設・設備（受講者数、教室の大きさ、照明の明るさなど）について

- ・授業の人数と教室の大きさが釣り合い。
- ・教室の温度調節が不適切。学生に任せてはどうか。
- ・教室が大きすぎて提示資料が見えない、声が聞こえない。
- ・パソコン教室だと授業参加への意識が薄くなるように感じた。

3. 演習

(1) 良かった点

- ・レポートの書き方を学べた。
- ・興味のある分野を見つけられた。
- ・言語によるコミュニケーションと非言語によるコミュニケーションに興味を持てた。
- ・第二言語の習得に関する知識が得られた。
- ・DVD 作品を通じて、英語（字幕、台本の訳）やイギリスの貴族社会について学べた。
- ・授業における原文と映画化作品との違いなど通して、自分だけではできない発見や、深い理解が得られた。
- ・発言する力、物事を考える力が身についた。発表の仕方、レジュメの作り方が学べた。
- ・先生からアドバイスがもらえた。
- ・面談やメールでアドバイスがもらえた。

(2) 改善して欲しい点。

- ・先生が言っていることを理解するのが難しい。
- ・資料の文字数が多い。
- ・先生の話し方が分かりづらい。
- ・プリントの英語が難しい。
- ・授業が扱う主題そのものが難しかった。

(3) 教室の施設・設備（受講者数、教室の大きさ、照明の明るさなど）について

- ・演習室は冷房がなく暑い。（多数）

II. 授業の改善のために

先生方に提出いただきました「授業改善のために」から、一部を以下に紹介させていただきます。

0 改善アンケートの結果をどのように分析されますか、より魅力ある授業をするためのお考えをお書き下さい。

- ・「概ね好評」であった。
- ・自由記述欄に書かれた改善意見で妥当なものは積極的に取り入れていきたい。
- ・学生が総合的に判断した満足度を基準に PDCA サイクルを回す。
- ・教材の研究、教材の活用。
- ・アンケート結果から、学生の理解力の低下が認められるが、それは学生のみならず、それまで受けている教育の質にも問題がある。

I 授業改善で成果がみられたご自身の FD 活動について、その内容、期間、効果等について、出来る限り具体的に記述願います。

- ・双方向的な授業のための工夫（リアクションペーパーなどで質問の機会を増やす）
- ・学生とのコミュニケーションの機会を増やし、アドバイスをしている。

- ・配付資料の工夫（カラー化、事前配布）。
- ・視聴覚教材や映像資料の使用。
- ・板書など「自由記述欄」に書かれた要望への対応により、同様の要望が減った。

II 授業改善を実施するうえでの問題点について、お聞かせください。

- ・授業改善を実施する上での、教員間でばらつきのない授業規律の必要性。
- ・語学の授業にいてシラバスの統一、授業の引き継ぎ、担当教員間の連絡が必要。
- ・シラバスの重要性の確認と十分な準備時間の必要性。
- ・試験、レポートの返却、コメントが教育効果を高める。
- ・学生間の意欲、関心や理解力にばらつきがある。
- ・学生に多くを要求すると不満が出てくる傾向がある。
- ・授業中の私語、途中退席。
- ・雑務の増加が教員の研究や授業への障害になっている。
- ・効果的な語学授業の展開のためには、新しいタイプの教室（コンピューター室と一般教室の間のハイブリッド教室）や学内のネット環境の向上が必要。
- ・効果的な授業のためには受講者数の人数制限が必要（添削を行う授業や語学の授業など）。

III FD 活動全般に関するご意見・ご提言についてお聞かせください。

- ・藤の目指す教育について理解を共有し、とそれに合致した FD 活動を。
- ・各教員の FD 活動や他大学での取り組みについて、情報を共有する機会が必要。
- ・45 分の語学授業においては、アンケート時間を確保するのが困難。
- ・様々なアンケートがあるなかで、授業改善アンケートの信頼性をどのように確保すべきか（自由記述が減り、アンケートに適当に答えている様子がうかがえる。学生はアンケートに疲れているのではないか）。
- ・授業改善アンケート集計結果の翻訳。
- ・学生の側にも改善の努力が必要。
- ・人間生活学部のように、互いの授業を見学する機会の導入。

III. FD 委員会より

1. 今後の FD 活動について

2015 年度後期授業分から、委員会では学生の皆さんによる「自由記述欄」に加え、先生方からご提出いただいた「授業改善のために」にも目を通し、授業改善に向けた意見収集に努めてまいりました。その結果、先生方の授業改善への努力・成果や授業改善への取り組みそのものについて、様々な情報を得ることができました。最近散見されるようになった問題としては、学生間の学力差のばらつきや私語などによる授業環境の悪化があり、これらについては先生方だけでなく学生の皆さんからも指摘をうけています。また、同じ科目間のシラバスや進度の相違についても、教員・学生の双方から改善が求められています。これは担当者による改善以上に、カリキュラムを運営する大学側に求められている改善と言えます。

これらの意見を踏まえ、少しずつ FD 活動自体の改善を進めていきたいと考えておりますが、まずは 2017 年度後期授業について行ったアンケート分から、「授業改善のために」の書式を少し変更したいと思います。従来あった四つの質問項目のうち、最初の「アンケート結果の分析」を回答者である学生の皆さんへの返答であることを明確にいたします。これはアンケート結果をフィードバックしてゆくための体制づくりを念頭に置いた措置です。学生の皆さんにアンケートを行ってもらっている以上、授業を担当する側もそれに回答する義務がありますし、授業改善には教員と学生とのコミュニケーションが不可欠であるとの認識によります。残りの三つの質問項目については従来通り FD 委員会向けの回答として記述していただき、収集した情報を委員会、先生方、そして学生の皆さんとの間で共有し、FD 活動に役立てていきたいと思っております。

この他、上でも述べたカリキュラム運営上の問題や施設の問題などについては、教務部委員会や施設課・メディアセンターなどとも連携し、改善に努めてゆく所存です。

引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。

2. 集計結果のミスについて

前号でご報告しましたように、2015 年度・2016 年度分の「授業アンケート集計結果」の文面に関して記載ミスがあり、その後、事前のチェック体制の強化をはかりました。しかし、2017 年度前期分について再びミスが起きました。今回は、大学側のチェックの及ばない集計結果そのものに関わるミスでしたが、FD 活動に大幅な遅滞を生じさせることとなりました。アンケート結果に回答いただいている先生方には再度ご迷惑をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。